

渡良瀬遊水地および周辺の自然・生物に関する調査 研究と学習に関する車組織化

著者	薄木 三生, 金子 律子, 慶津 直樹, 長濱 元
雑誌名	地域活性化研究所報
号	11
ページ	18-23
発行年	2014-02
URL	http://id.nii.ac.jp/1060/00007404/

渡良瀬遊水地および周辺の自然・生物に関する調査研究と 学習に関する組織化

実施担当研究員：薄木 三生（国際地域学部国際観光学科 教授）

金子 律子（生命科学部生命科学科 教授）

廣津 直樹（生命科学部生命科学科 准教授）

客員研究員：長濱 元（東洋大学名誉教授）

1. 研究（事業）の目的と背景

（1）研究（事業）の目的

渡良瀬遊水地および周辺の自然・景観を対象とする学習に関する事業を実施し、大学と地域の学校教員、地域社会（住民・公民館、地域活動グループ・団体等）が連携して行う学習・研究活動の組織化を図る。

（2）研究（事業）の背景と必要性

渡良瀬遊水地および周辺の自然・景観を対象とする学習に関しては、その自然に関する学習（植物・昆虫・野鳥・魚など）と環境・公害問題の原点とも言われる足尾銅山の鉱毒と渡良瀬遊水池が建設されるに至った社会的・歴史的な問題の学習のふたつの大きな分野がある。

本研究（事業）は主として前者の自然に関する学習（植物・昆虫・野鳥・魚など）に注目し、その学習が渡良瀬遊水地周辺の地域社会にとって、その必要性に対して十分に組織化されていないことに気がついたからである。

本研究（事業）を開始したのは7年前の平成19(2007)年度であるが、その頃の自然学習の状況は次のような状況であった。

最も盛んであったのは野鳥に関する「探鳥会」で、これは「日本野鳥の会」の支部が全国的な調査活動の一部として取り組んでいたことにもよる。また、その他の分野でも周辺の民間団体によって環境保護運動、ラムサール条約湿地への登録運動の一環として行われてきたこともある。しかし、一般の人たちを対象として行われる各分野の観察会は回数も少なく、定期的でもないで、必ずしも組織的に開催されていたとは言い難かった。

一方、学校教育においても1990年代から環境教育が積極的に取り入れられるようになり、自然体験活動が「総合学習」などの内容として取り入れられ、校内に「ビオトープ」などを設置して、湿地植物の栽培や魚などの飼養を行う学校も増えてきた。一部の民間団体による自然観察活動への援助も行われているが、組織的というほどではない。

そのような中で(財)渡良瀬遊水地アクリメーション振興財団が平成14(2002)年度から周辺の学校が行う遊水地の自然体験活動への援助とサービスを始めるとともにそれらの活動の合同発表会を開催するようになって少し組織化されるようになった。しかし、援助できる予算の枠が限られ、対象とする学校数も限られているので、十分に組織化されてはいない状況だった。（表1参照）

これらの活動の中で特に問題と感じたのは指導者の数が少ないことであった。周辺の学校の教員も生物や環境問題に詳しい先生たちばかりではないし、各分野の同好者の人たちの中でも、一

般の人たちや子どもたちに十分指導できる熟達者は多くない。現在まで活躍してきたベテランの指導者も年々高齢化していくので、もうひとまわり以上若い人たちに指導者としての素養をつんでもらうことの必要性を強く感じたのである。

そのために、まず始めたのが「自然体験活動指導者養成講座」であり、この講座を出発点として、学習活動の組織化に必要な活動の開発を研究することとしたのである。

表 1. 渡良瀬遊水地学習研究発表会開催状況

(財) 渡瀬遊水池アクリメーション振興財団主催

市町村	参加	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
	学校名	2/22	2/21	2/19	2/18	2/17	2/16	2/14	12/4	12/3	12/2	12/7
栃木市	藤岡小	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○
	三鴨小	○										
板倉町	板倉東小	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
	板倉中	○										
加須市	北川辺東小	○		○		○			○	○	○	○
	北川辺西小		○		○		○					
	北川辺中	○										
小山市	下生井小		○	○			○	○			○	
	寒川小				○				○			○
	中小	○				○				○		
古河市	古河第五小		○	○								
	古河第七小								○	○	○	○
野木町	新橋小			○							○	
	野木小											○
その他	渡良瀬未来基金	○										
	日本野鳥の会	○										
	東洋大学									○		

2. 平成25年度における事業の内容

本事業では研究の目的を達するために平成25年度には3つの事業を行っている。以下に順番にその内容と成果を示す。

(1) 自然体験活動指導者養成講座

開催日時：平成25年9月14日（土）9:40～13:30

場 所：体験活動センター「わたらせ」学習ハウスおよび旧谷中村付近

対 象：学校教員、社会教育指導員、一般有志

参 加 者：10名

参 加 費：無料

今年度は植物を対象分野として9月14日（土）に7回目の講座を実施した。講義の会場は新しく建設された「体験学習センター・わたらせ」の学習ハウスの半分を借りて行った。この施設は谷中湖の北側にある子ども広場の中にあり、駐車場にも近い。遊水地内における体験学習の基地として有料で利用することができる。座学もでき、実地での観察活動の準備やシャワー利用もできる施設として大変便利な施設である。

参加者数も応募は11人であったが、当日欠席者が1人出て参加者は10人となり、参加者募集目標の10人にピッタリと一致した。大和田講師のテキストも充実し、植物観察も天候に恵まれて多くの貴重種を見ることができた。



写真1 渡良瀬つりふねそうの花の形状の違いについて：第7回指導者講座
（平成25年9月14日）



写真2 木の上の昆虫はどのように調べよう。
：第3回指導者養成講座
（平成21年9月12日）

(2) ヨシ紙づくり講座

開催日時：平成25年11月2日（土）11:00～16:00

場 所：東洋大学板倉キャンパス2号館2205教室

対 象：一般の来校者

参 加 者：35名

参 加 費：無料

大学祭におけるヨシ紙づくり講座は3年目となったが、残念ながら参加者数は年々減少して今年度は30人余りであった。大学祭への一般参加者数も増加していないので自然な趨勢のように思える。しかし、ファンもけっこういて、実施しない2日目に来てガッカリして帰る人たちもいた。



写真3 傑作だね。楽しかった！
：ヨシ紙づくり講座
(平成23年11月6日)

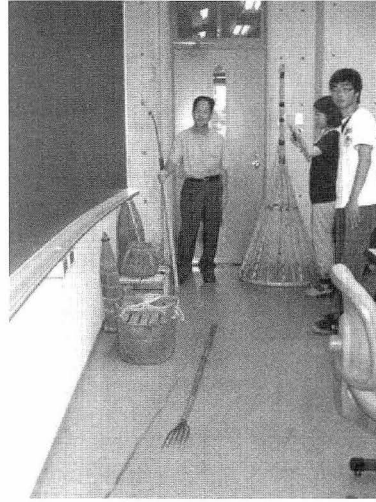


写真4 魚を取るための道具の説明
：魚に関する研究会
(平成23年7月30日)

(3)「渡良瀬検定(仮称)」に関する研究会

開催日時：第2回 平成25年6月30日(日) 11:00～13:00

第3回 平成25年12月14日(土) 13:00～15:00

第4回 平成26年2月(予定)

場 所：第1・2回 加須市北川辺スポーツ学習館

第3回 渡良瀬遊水地内体験学習センター「わたらせ」

第4回 未定

対 象：研究会メンバー

参 加 者：6名

参 加 費：無料

渡良瀬遊水地を総合的に学習するための知識を獲得する手段として、「ご当地検定」としての「渡良瀬検定(仮称)」を実現できないかと考え、そのための研究会を昨年度に発足させて第1回の研究会を実施済みであったが、今年度は6月に第2回目の研究会を実施し基本構想について検討した。その後は問題づくりの作業に入り、12月に3回目の研究会、および年度末の適当な時期に研究のまとめを行って、外部の団体に研究の成果をバトンタッチをする予定である。

3. 研究の成果と将来の展望

本事業は今年度まで7年間継続して実施してきた。今年度で終了の予定である。前半の4年間(当初は8年計画)は自然体験活動指導者養成講座を中心に活動し、渡良瀬遊水地の自然・生物

に関する知見と民間団体等が実施する各分野の「観察会」の動向の調査を行った。

まず4年間は参加対象者を特に指導者に絞らず、一般の「観察会」に近い形態・内容で行ったが、状況の把握ができてきたところで「指導者養成講座」にふさわしい内容に近付け、参加対象者の募集数も30～50人から10人程度に絞って講座内容の高度化を図った。一般の「観察会」レベルの講座は他の民間団体等が主催するものにまかせることにした。(表2参照)

表2 「自然体験活動指導者養成講座」の実績表
(東洋大学地域活性化研究所主催)

実施時期	参加者の対象地域	実施した学習分野	参加者数(講師・スタッフを除く)
第1回 (平成19年12月1日)	板倉町のみ	1. 旧谷中村の歴史 2. 野鳥観察 3. 魚類観察	38名
第2回 (平成20年8月9日)	板倉町、 旧藤岡町、 旧北川辺町	1. 植物観察 2. 魚類観察	51名
第3回 (平成21年9月12日)	板倉町、旧藤岡町、旧北 川辺町、旧古河市	1. 植物観察 2. 昆虫観察 3. 魚類観察	47名
第4回 (平成22年9月11日)	板倉町、旧藤岡町、旧北 川辺町、旧古河市、野木 町、小山市(南部地域)	1. 植物観察 2. 昆虫観察 3. 魚類観察	48名
第5回 (平成23年12月10日)	板倉町、旧藤岡町、旧北 川辺町、旧古河市、野木 町、小山市(南部地域)	野鳥の学習と観察 (観察前学習の取り入 れ)	36名
第6回 (平成24年9月29日)	板倉町、旧藤岡町、旧北 川辺町、旧大利根町、旧 栗橋町、旧古河市、野木 町、小山市(南部地域)、	昆虫の学習と観察 (観察前学習の取り入 れ)	3名
第7回 (平成25年9月14日)	板倉町、旧藤岡町、旧北 川辺町、旧大利根町、旧 栗橋町、旧古河市、野木 町、小山市(南部地域)、	植物の学習と観察 (観察前学習の取り入 れ)	10名

(注) 本講座は平成25年度の第7回で終了となる。



写真5 谷中村の歴史に関する説明
: 第1回指導者養成講座
(平成19年12月1日)



写真6 野鳥観察スポットから見る
: 第1回指導者養成講座
(平成19年12月1日)

一方、本事業に終始協力をいただいていた（財）渡良瀬遊水池アクリメーション振興財団でも、それまでは小学校の自然観察学習への協力が中心であったが、平成 23 年度以降一般の人たちを対象とした「観察会」について各分野で年間を通して行う企画を、外部の団体・東武鉄道などの資金援助を得て実施するようになり、24 年度から本格的な実施が実現した。

また、平成 24 年度以降は渡良瀬遊水池のラムサール条約湿地への登録が実現し、にわかに各種の団体や自治体等が渡良瀬遊水池の自然観察会を実施するようになった。従来から毎年幾つかの団体や小学校が観察学習を実施していたが、その数が急増しそれらのお世話を依頼される（財）渡良瀬遊水池アクリメーション振興財団の担当者、25 年度から活動を開始した体験活動の基地となる「体験学習センター・わたらせ」の担当者は多忙を極める状態となっている。

さらに（財）渡良瀬遊水池アクリメーション振興財団では平成 23 年度から本研究の自然体験活動指導者養成講座のレベルに相当する「渡良瀬遊水池自然学習講座」を毎年度末に 1 回開催するようになった。また、従来は不定期に年に若干の回数のみ実施していた、野鳥・植物・昆虫分野の地元の同好会がそれぞれグループとしての組織を立ち上げ、毎月定期的に観察会の開催を実施するようになっただけでなく、それぞれ 1 名ずつしかいなかったベテランのリーダーのほかに、若干名のサブリーダーが生まれてくるようになった。

これらの変化は、本研究の目的である渡良瀬遊水池に関する観察会の普及と指導者養成活動が次第に育って定期化・組織化の動きが強まってきたことを示している。この背景には渡良瀬遊水池のラムサール条約湿地への登録という追い風が吹いたことも強く影響しているが、その追い風はこのままではいつまでも続くものではなく、今後さらに前進させていく必要がある。

そのための方策として、本研究の延長上に 2 つのテーマを提案することとした。それらは、ご当地検定としての「渡良瀬検定（仮称）」の実施と、「渡良瀬総合博物館」の創設である。

「渡良瀬検定（仮称）」については平成 24 年度後半から研究を開始し、平成 25 年 1 月に少数のメンバーで第 1 回の研究会を行った。平成 25 年度には「基本構想」の検討を行い、検定問題の試作に入ることとし、6 月と 12 月に研究会を実施し、年度末に研究成果をまとめ、平成 26 年度以降は実施②関心を持つ外部の団体にバトンタッチを行う予定である。

また、「渡良瀬総合博物館」についてはまだ構想のみの段階であるが、渡良瀬遊水池に関する知的・学術的な調査研究のレベルアップ、その成果を地域の環境問題の改善と観光客を含む訪問者への対応など、地域活性化のための活動へも貢献できる施設として設置することが望ましいと考える。将来に向けては、滋賀県の琵琶湖に「琵琶湖博物館」があるように、足尾山地、渡良瀬川流域、渡良瀬遊水池、利根川流域とつながっている関東の中心地域に関する総合博物館として成長できれば大成功となろう。

以上